

## 立教セカンドステージ大学・2021年度修了式・式辞

総長 西原廉太

セカンドステージ大学のみなさん、ご修了、誠におめでとうございます。今年度も一向に終息を見せないコロナ禍の中で、みなさんにはさまざまな負荷をかけることになってしまいました。しかしながら、そうした最中であっても、それでも挫けることなく、学ぶことに対する誠実な熱情を保たれて、本日、この日を迎えられた、みなさんの努力に、私は立教セカンドステージ大学学長として、心からの敬意を表するものです。同時に、この世界史的な出来事が起こったというこの時に、みなさんがセカンドステージ大学で学ばれたことの、特別な意味をぜひとも思い巡らせていただければと願います。きっと、与えられたものも限りないと信じています。

言うまでもなく、立教セカンドステージ大学は単なる生涯学習の場や文化講座プログラムではありません。そうではなく、「学び直し」と「再チャレンジ」の〈プラットフォーム〉として、私たちは位置づけています。みなさんは、〈セカンドステージの生き方〉を自分自身でデザインされ、テーマを持ち、それを深められました。その証こそが、みなさんに本日、授与されました修了証に他なりません。

しかしながら、みなさんの学びはもちろん今日で終わるわけではありません。むしろ、今日は、みなさんの学ぶ者、学徒としての新たな出発の時なのです。立教セカンドステージ大学で与えられたさまざまな新たな知識や気づきを、みなさんのこれまでの、そしてこれからの経験と重ね合わせながら、ご自分だけの言葉に置き直し、新たな可能性を築いてくださることを心から願っています。

コロナ禍だけではなく、今、この時もウクライナでは武力によって貴い命が失われ続けています。この間、ウクライナへのロシア軍の進攻をめぐる、また現地の状況をめぐって、無数の情報が流されていますが、何が真実で、どれがフェイクなのか、それを見分けるためにも、誠実な学びが必要です。今回の事態を本当に理解するためには、例えば、ロシア正教会とウクライナにおける複数の正教会、ギリシャ正教会、ローマ・カトリック教会などの西方教会との歴史的関係性、プーチン大統領とロシア正教会の関係性などを深いところで知る必要があります。みなさんは、このセカンドステージ大学で、そうした物事の見方や手法についても学ばれました。これはきわめて重要なことであると確信しています。

この困難で予測不可能な時代にあって、この社会にさまざまな形で貢献する担い手として、みなさんのこれからの人生を豊かに過ごしていただきたいと思います。そのきっかけを提供することができたならば、私たちにとって、これ以上に嬉しいことはありません。

本日、立教セカンドステージ大学を修了されるみなさんお一人おひとりが、この修了証に誇りを持ちながら、新しい世界を構想し、豊かな、いのち溢れるみなさんそれぞれのセカンドステージを生きていってくださることをお祈りして、私の式辞とさせていただきます。